



待降節第 1 主日 (ルカ 21:25-28,34-36)

どのようなイエスの到来でも身を起こして頭を上げる

教会のカレンダー「典礼暦」では待降節第 1 主日が一年の始まりです。初聖体を受けたお友だちにとって、今週から本当に新しい始まりです。今日、祭壇の横に、今まで置いてなかった物が置かれています。気づいたでしょうか。「アドベントクラウン」とか、「アドベントリース」とか呼ばれている飾りです。

このリースにローソクが四本立てられていて、これから一週ごとにローソクの火を増やしていきます。いつまでこのリースを飾って、ローソクを灯していくでしょうか。イエス様の誕生「クリスマス」までです。イエス様をお迎えする準備が始まりましたよ。今週はその一週目ですよ、二週目ですよと、私たちに準備をさせる助けになります。

初聖体組のお友だちは、初聖体を受けるまで、ミサの中で何が行われているのか、ほとんど分からなかったかもしれません。けれども御聖体をいただくようになった皆さんを、これからはイエス様が育ててください、ミサの中で何が起きているのかがよく分かるように導きます。お恵みを受ける前と違って、御聖体のお恵みがどんどん皆さんを育ててくれます。

ミサをしている神父様の着ている服を見てください。何色ですか？紫色ですね。神父様たちは、典礼の季節によって、その日の祝日によって、祭服の色を変えてミサをしています。きっと今までは、祭服の色とか何も気にしてなかったし、見てなかったでしょう。

けれども御聖体をいただいたその時から、イエス様に育てられて、祭服の色に気づけるようになると思います。いつか、お父さんお母さんに、「今日神父様はどうして紫の服を着ていたの？今日はどうして白だったの？」と尋ねるようになるでしょう。お父さんお母さんはその時は「あとで神父様に聞いてごらん」と促してください。

今日神父様が読んだ福音の中から、次の言葉を選びました。「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると。このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。」(21・27-28)

「雲に乗ってくる」これがいつかは分かりませんが、イエス様が大いなる力と栄光を帯びておられる姿は、これから何回も見ることが出来ます。イエス様の誕生もそうです。ヘロデはイエス様の誕生に不安になるほどでした。クリスマスのあとは、学者たちが黄金とか、びっくりするような貴重な贈り物をして礼拝するご公現を迎えます。

その次はイエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けて、天が開いて聖霊が鳩のような姿でイエス様に留まります。また四月、新学期を迎えるとイエス様の復活をお祝いします。こうしてたくさんの「大いなる力と栄光を帯びておられる姿」を、これから皆さんは見るようになります。

この「人の子が大いなる力と栄光を帯びて」おられる姿を見るとき

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

は、私たちにとっては喜びの時、解放の時です。それはイエス様を信じて、イエス様に養われてその時を迎えるからです。イエス様を知らない人、信じない人は、「人の子が大いなる力と栄光を帯びて」来ると聞いたら、怖いと思うかも知れません。小さな子どもは、お父さんお母さん以外の人を、知らない人だから怖がります。それと同じです。恐ろしくて、お父さんお母さんのうしろに隠れてしまうでしょう。

私たちは違います。力と栄光を帯びてやって来るイエス様は、私たちのために御聖体になってくださったイエス様と同じだからです。いつも私たちを養い、育ててくださる方です。喜んで私たちを迎えてくださり、優しく導いてくださる方です。力と栄光は、私たちを怯えさせるものではなく、私たちの喜びのためです。

ですから私たちは、イエス様がおいでになることを「身を起こして頭を上げ」ながら待ちます。イエス様がおいでになるときはいつでも、喜んで迎えましょう。「いつも目を覚まして、イエス様がおいでになるのを待って祈っていました」と言えるように、イエス様を待ちましょう。最初は、イエス様の誕生を待ちます。

待降節第2主日(ルカ 3:1-6)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。